

ぽぼろだより



大阪発達支援センターぽぼろ（大阪障害者センター教育部門）

TEL06-4257-8881 FAX050-3403-3392

発達支援センター「ぽぼろ」が開設しました



世の中全体が能力主義・競争主義が強まってきたように思います。その流れのなかで、障害児・者を取り巻く環境はこれから厳しさを増していくのではと不安です。また、情報化時代で情報が氾濫することで、かえって「何が自分の子どもにとって大切であり、子育てにとって何を大事にしなければなら

らないのか」が見えにくくなっています。

NPO法人「大阪障害者センター」は、そんな状況にある障害児者・家族を支援することを目的に、3年前に教育部門を立ち上げて、発達・子育て相談や講座事業などを進めてまいりました。そして、今年度からはそういった支援機能を一段と強化・充実させることをめざし、「大阪発達支援センターぽぼろ」として、リニューアルスタートさせました。

この「ぽぼろ」では、障害のみならず様々な困難・特別なニーズをもつ子どもたちの子育て・教育・発達相談に応じます。また、子どもたちの課題に応じる療育教室の開設もすすめてまいります。お気軽にご相談いただき、ともに子どもたちへの支援を進めていくことができれば幸いです。

大阪発達支援センタースタッフ一同

青木道忠(所長)、桑山好司、馬場喜子、東摩耶子他

2005年度前半の活動のあらまし

子育て支援・相談事業	相談活動	70件		
	発達診断	9件		
	出張相談	18件		
講座事業	自閉症講座	5月終了	172名受講	
	発達診断講座	8月45名受講	補講7名	
	家族連続講座	泉州講座以外は30名以上で開講中		
	北河内講座(府教委の後援認可)			
	南河内講座(府教委の後援認可、地元4市の後援認可)			
	泉州講座3(3学期予定)			
施設実践強化事業	5回			
講師派遣事業	49件			

そのほか、情報提供事業として「教育壁ニュース」を発行し、今後「センターニュースぼぼろ」の発行も予定しています。

お気軽にご利用ください

言葉の遅れなどの発達上の悩み、LDやADHDなどに関する
こと、知的な遅れや自閉症などに関することその他子育てや教育
に関することで悩んでおられる保護者・施設や学校の職員など、
どなたでもご利用頂けます。

面接相談は無料ですが、発達相談は6000円です(障連協加盟団
体会員は5000円)。(いずれも予約が必要です)

*** 講座受講者の感想より**

発達保障に関する講座は初めてでしたので、新鮮な感覚で引き込まれる
ように聞かせて頂きました。子どもさんが困っている面に対して、幼児期
の自我の発達に立ち返って考えていく重要性を再認識しました。不安定な
世の中に生きているわが子に対してもいろいろな思いをもちました。

「発達する」ことそのものについての筋道や目安、1つのことから1つ
のことへの関連などが、分かりやすく、大変参考になりました。資料も、
理解のために入手できにくいものも提示して頂き感謝しています。検査の
土台となる視点がよく分かりました。

発達の中味の具体例をもっと知りたいと思った。興味深かった。

発達支援センターぽぽろ」に期待します

作業所で毎日、障害をもったなかまと向かい合う中で、“なぜ、こんな行動に？”とか、私たちが今取り組んでいる課題が、そのなかまにとって適切なのかどうかということなど、日々悩みながら取り組んでいたときに、「福祉実践強化モデル事業」の提起があり、是非にということにとびつきました。

青木先生に来て頂き、「発達診断」を、そして「ケースカンファレンス」をうけていくことで、今まで気付かなかったり、見落としてきた視点に出会うことができました。

“「発達診断」は、その人に点数をつけるものではなく、必要な支援を見いだすために行うもの”との言葉が印象的です。「発達支援センターぽぽろ」の果たす役割がこれからますます重要になってくると思います。

障害者共同作業所わかたけ：施設長 関 容子

日に日に増える相談を通して、国の宝の子どもを育てることが、こんなに家族的責任に背負わされているなんて、「お母さん、いっしょにがんばりましょうね」とつくづく思います。

相談に来られたお母さんが、青木先生や馬場先生に、今までのがんばり、悩みをまず受け止めてもらって、ほっとされる姿が印象的です。

青年期と違い、生まれてからの18年間の大切な発達の時期に、生活支援とセットでの子育て、教育相談の大切さを感じています。

情報溢れる今の社会で「障害者自立支援法案」や特別支援教育など障害者を取りまくシステムがどうなっていくのか。お母さんたちは求めておられます。

タイムリーな情報発信、いつも参考にさせていただき、助かっています。

これからも期待しています。

生活支援センターアップル：相談員 小林京子

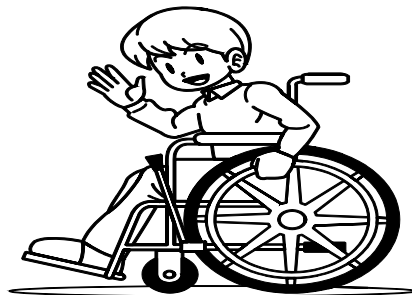
開所に当たって 青木所長

私がこの仕事に携わらせていただいていた、早くも2年半余りが過ぎました。この間、お受けした子育て・発達相談の件数は300件を大きく超え、実施した発達診断件数も50件余りになりました。対象は、1歳未満の赤ちゃんから



40歳を過ぎた成人の方まで、実に多彩です。そのなかには、知的障害や肢体障害だけではなく、注意欠陥多動性障害やアスペルガー症候群、さらには障害のない子どもの不登校の問題もありました。

しかし、どの相談でも共通していたのは、保護者の方の子どもにかける熱い思い（場合によっては必死の思い）であり、発達検査の課題に向かい合う子どもたちの真剣な姿でした。そして、そうした思いや姿に接するにつれ、その責任の重さと少しでもお役たてるようにとの思いを新たにしています。



募集しています

現在「ぼぼろ」では、新しくスタッフとして加わって頂ける方を募集しています。専門的な知識などがなくても、事業の企画運営や講座事業・事務所の実務などいろいろな仕事があります。また、今までの経験を生かしての相談活動やニュース発行などもあります。もちろん毎日ではなく割いて頂ける時間を登録していただければ結構です。ぜひ御一報を。新たな出会いをお待ちしています。